

中野駅駅前広場デザイン等整備方針の策定について

区では、中野駅を中心とした4つの「まち」の各駅前広場について、今後、各駅前広場を計画、設計する際の前提となる「中野駅駅前広場デザイン等整備方針（以下「デザイン等整備方針」という。）」の策定検討を進めている。

今般、第5回デザイン等整備方針検討会（以下「第5回検討会」という。）を開催し、意見交換会等での意見等を踏まえデザイン等整備方針（案）を取りまとめたので報告する。

1. これまでの検討状況

(1) 意見交換会の開催状況について

概要及び主な意見と区の見解等は、〈別紙1〉のとおり

(2) 第5回検討会の主な意見

- ・愛称などにより、駅前広場が地域になじみのある場となるよう工夫すること
- ・駅ホームなど周辺施設からの見え方について配慮すること
- ・駅前広場は交通結節点として、雨天でも快適に通行できるよう配慮すること
- ・特性をいかすデザインイメージについて、分かりやすい説明を工夫すること

2. 素案からの主な変更点

- ・空間整備の基本的な考え方に「広場が、地域に親しみ感や愛着を与え、地域になじみの場となるように、愛称を付けるなどの工夫をする」を記載
- ・各駅前広場の整備方針に「駅ホーム等、周辺施設からの見え方に配慮した空間」を記載
- ・各駅前広場や周辺地区との連携に「ユニバーサルデザインに配慮し、いつでも誰もが安全・快適」を記載
- ・「特性をいかすデザイン」イメージに区内の事例写真を掲載

3. デザイン等整備方針（案）について

〈別紙2〉のとおり

4. 今後の予定

令和3年2月上旬 デザイン等整備方針の策定

各事業の進捗に合わせ、デザイン等整備方針を踏まえ、各駅前広場の計画、設計を進めていく。

中野駅駅前広場デザイン等整備方針（素案）に関わる意見交換会の開催状況について

1. 意見交換会の概要

日 時：令和2年10月29日（木）午後7時から8時30分

会 場：中野区産業振興センター

参 加 者：18名

説明内容：中野駅駅前広場デザイン等整備方針（素案）について

2. 主な意見と見解等

【コンセプトについて】 （1）件

No.	区民等からの意見など	区の見解等
1	コンセプトの「つながる、まじわる、たかまる」のたかまるの「新たな価値」とは、具体的に何を想定しているのか。	中野に住む人や中野を訪れた人が、それぞれの目的地に行くことだけでなく、歩行者動線をつなぐことで、4つのまちを交わらせ、人の流動と活動をうながすことで、新たな魅力が生じると考えており、この新たな魅力が「新たな価値」につながると考えている。

【歩行者デッキについて】 （3）件

No.	区民等からの意見など	区の見解等
2	南口駅前広場、新北口駅前広場とも交通結節点として、雨天でも快適に通行できるよう連続したシェルターが望ましい。	バス等の乗り換えや駅に向かう動線についても、いつでも快適に通行できることが必要と考えられるため、その旨をデザイン等整備方針に記載する。
3	デッキ下が日陰となり、温かみがなく、人がいないということにならないか心配である。	デッキ下については、必要な機能を満たしながら暗くならないよう広場の設計作業の中で検討していく。
4	将来的には中野駅新北口駅前エリア拠点施設や囲町側にも歩行者デッキができるが、まずは各駅前広場をつなぐことが重要ではないか。	各駅前広場をつなぐことは重要だと考えている。中野四丁目と中野五丁目をつなぐ東西連絡路は整備済みであり、中野三丁目と中野四丁目をつなぐ南北通路は着工している。一方、中野二丁目と中野三丁目、中野二丁目と中野五丁目をつなぐ歩行者動線についても将来構想はあり、まちづくりの進捗状況に合わせて実現化を検討していく。

【防災について】 （１）件

No.	区民等からの意見など	区の見解等
5	西口広場の階段下を利用して、備蓄倉庫を設けてほしい。	詳細については、今後、検討していく。

【その他】 （３）件

No.	区民等からの意見など	区の見解等
6	整備方針だけでなく、実現手法についても組織づくりをしっかりと行ってほしい。	整備方針の実現手法については、今後、詳細について検討していく。
7	広場のシンボルツリーは、地域にゆかりのある木を植えてほしい。	植栽については、地域の歴史なども踏まえて今後、広場の設計作業の中で検討していく。
8	西口広場の名称について、変更することは可能か。	現状は、都市計画上の名称として、西口広場を使用しているが、区には道路の愛称制度があり、地元から要望が寄せられ、一定の基準に適合した場合に愛称をつけることができる。

中野駅駅前広場デザイン等整備方針 (案)



中野は、明治22年のJR中央線(甲武鉄道)の開通以降、都心と多摩方面をつなぐ好立地により、住宅都市として発展してきました。

このうち中野駅周辺は、JR中央線と中野通りで4分割された「まち」でそれぞれの個性を育くみ、界わい性ある商店街と閑静な住宅地、中野サンプラザ、警察大学校等の大規模施設など、多様な要素が混じり合い共生する、独特の空間を形成してきました。

一方、警察大学校等の移転を契機に始まった「中野駅周辺まちづくり」により、大規模オフィスや大学などが集積し、昼間人口の大幅な増加が生じるとともに、職住近接が実現するなど、新たな発展の契機を迎えています。

また、中野駅についても既存の北口・南口に加え、JR中央線の南側と北側をつなぐ通路と新たな西口を整備し、合わせて新北口駅前広場や西口広場を新規整備、南口駅前広場は拡張再整備することとなっています。

区はこれらのことを中野のまちの持続可能な発展に向けた契機と捉え、中野駅周辺の4つの「まち」をつなぎ、人々やまちの特性を交わらせ、新たな価値を生み出すことで、「東京の新たな活動拠点の形成」を目指します。

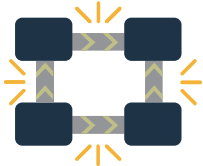
本方針は、中野駅周辺のまちづくりの目指す将来像の実現に向け、中野区都市計画マスタープランや中野駅周辺まちづくりグランドデザイン等の上位計画を踏まえ、中野駅の駅前広場デザイン等の整備のあり方について取りまとめたものです。

中野駅周辺の回遊性を高め にぎわいと交流を生みだす

中野駅周辺の「まち」をそれぞれの駅前広場と広場を結ぶ動線でつなぎ、特性ある4つの「まち」を交わせ、新たな人の流動と活動をうながすことで、中野駅周辺全体の魅力を高めます。

●にぎわいと交流を生みだす動線整備のコンセプト

①つながる



地形による高低差がある駅周辺の4つの「まち」を、複数の歩行者ネットワークで立体的につなぎ、誰でも歩きやすく、わかりやすい歩行者動線整備を行い、歩いて楽しいまちを実現します。

②まじわる



駅周辺の4つの「まち」は、誰でも歩きやすく、わかりやすい歩行者動線がつながることで、中野に住む人や中野を訪れた人の行き来が活発となり、まちの特性が交わります。

③たかまる



特性が交わる4つの「まち」は、他のまちの特性に触れることで、新たな価値を生みだし、駅周辺に加え中野区全体の魅力がさらに高まり、持続可能な中野のまちを形成します。

●空間整備の基本的な考え方

駅前広場の空間整備にあたっては、3つのコンセプトを踏まえ、以下の考え方で整備します。

■駅前広場の整備について

- ・4つの広場があるそれぞれのまちの特性を象徴するようなデザインを取り入れつつも、中野駅周辺全体で統一感のあるデザインとします。
- ・既存の周辺施設、樹木、舗装などと調和を図り、歴史や文化を継承します。
- ・広場が、地域に親しみ感や愛着を与え、地域になじみの場となるように、愛称を付けるなどの工夫をする。

■駅前広場を結ぶ動線の整備について

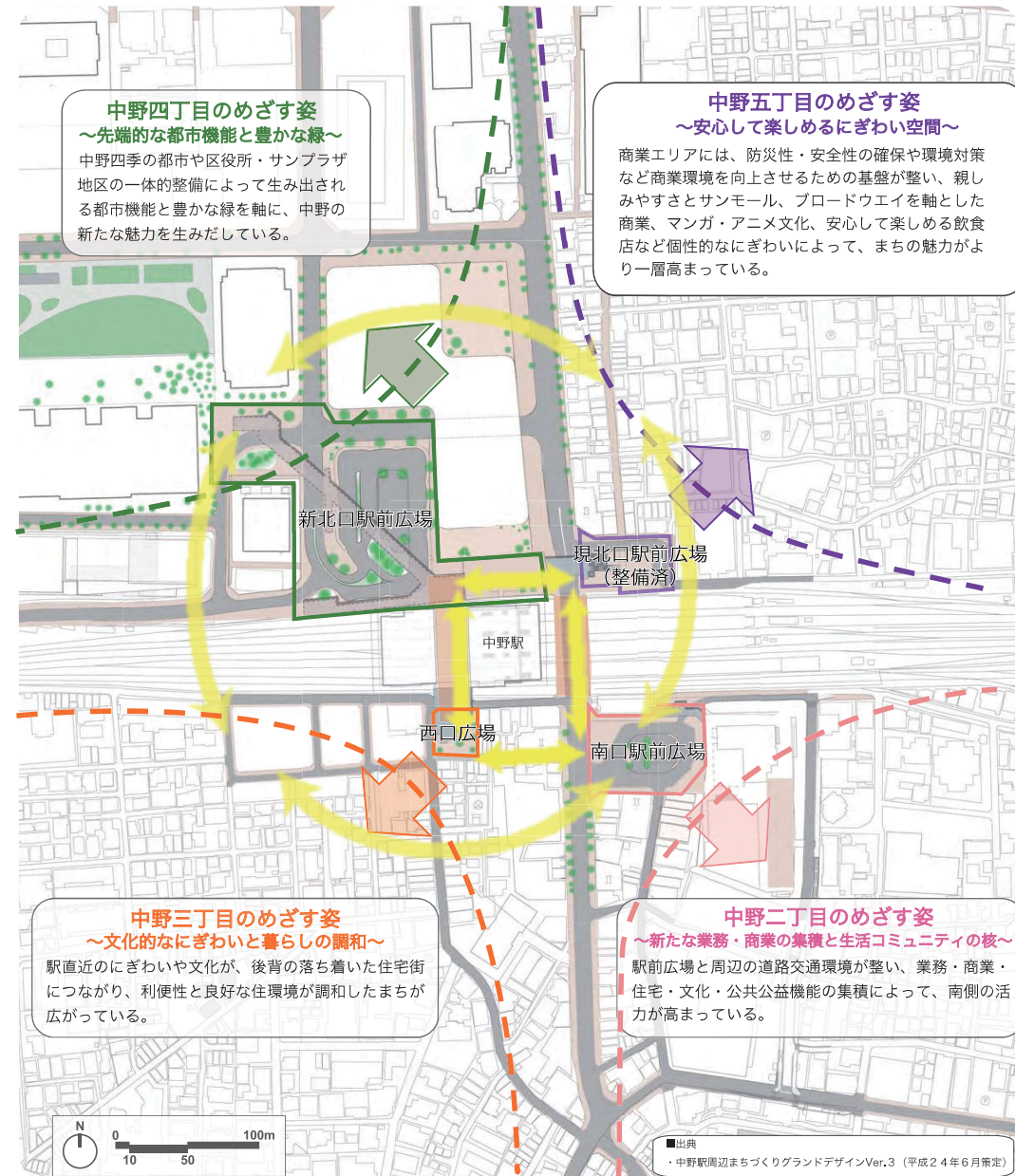
- ・ユニバーサルデザインに配慮し、誰でも安全で快適な歩行者空間を整備します。
- ・施設整備にあたっては、誰でも利用しやすい施設配置とします。
- ・誰でもわかりやすい標識・サインを整備します。

■駅前広場につながる空間について

- ・公民が協力し、公共が整備する「駅前広場」と民間が整備する「駅前広場につながる空間」が一体的なデザインの空間となるよう誘導します。

●中野駅周辺の4つの「まち」のめざす姿

中野駅周辺の各駅前広場と広場を結ぶ動線は、「中野駅周辺まちづくりグランドデザインVer.3」に示す「駅周辺各地区のめざす姿」に基づき整備を行い、中野駅周辺全体の魅力を高めます。



※現時点でのイメージであり、今後の検討で変わる可能性があります。

●新北口駅前広場

「新北口駅周辺の交通をつなぎ、歩行者の円滑な回遊とにぎわいを創出する空間」

- ・公共公益性の向上につながる空間構成とする。
- ・ユニバーサルデザインの歩行者ネットワークを形成する。
- ・周辺地区との関係性を踏まえた広場空間整備とする。

○中野四季の都市ゲート広場

「中野四季の都市の豊かな緑が顔を出すエントランス」

- ・南北通路からつながるデッキが中野四季の都市の緑と一体となった、緑豊かなエントランス空間とする。

○新北口歩行者デッキ

「南北通路と中野四季の都市をつなぎ中野駅前の新たなシンボルとなる歩行者空間」

- ・歩行者デッキは眺望を確保し、圧迫感を与えないような空間とする。

○新北口交通広場

「円滑に乗り換えることができる開放感のある交通結節空間」

- ・区内最大の交通結節点として、各交通手段を円滑につなぐ交通広場とする。

○新北口歩行者広場

「まちのエントランスとしての出会いの空間」

- ・中野五丁目のにぎわいに中野四丁目の新たなにぎわいをつなぎ、発展させる、駅北側の新たな顔となる広場とする。
- ・公共の歩行者広場と民間の出会いの広場が一体となり、多くの人が行き交う、にぎわいのある空間を目指す。

●南北通路

「中野四丁目と中野三丁目をつなぐ新たな南北動線」

- ・橋上駅舎、駅ビルと一体となり、新北口・西口へとつながる、利便性の高いにぎわいのある空間とする。

●西口広場

「歩行者の利便性・回遊性を高める、中野三丁目の新たな駅前空間」

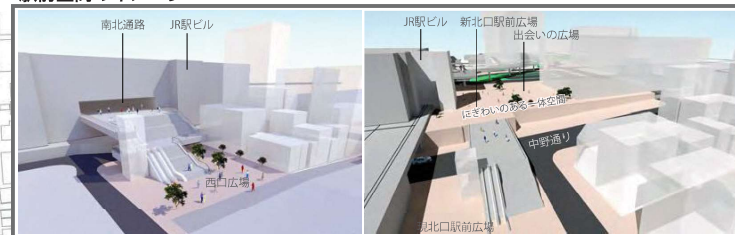
- ・南北通路から中野三丁目の街区につながる空間として、歩行者の動線とたまりを意識した広場とする。
- ・中野三丁目のまちなみとの一体感を感じられるデザインとする。

●周辺地区との連携

「公民連携して駅前広場の魅力を高める空間」

- ・公民で連携の上、ユニバーサルデザインに配慮し、いつでも誰もが安全・快適に通行できる快適な回遊動線や、居心地の良いたまり空間を一体的に確保する。

駅前空間のイメージ



中野三丁目南西側から西口広場を望む

中野通り東側から現北口及び新北口駅前広場を望む



●現北口駅前広場(整備済)

「多くの人が行き交う安全快適な歩行者広場」

- ・東西連絡路で新北口駅前広場と連携した、にぎわいのある空間とする。

●中野通り(鉄道高架下)

「中野駅周辺地区の南北をつなぐ主動線」

- ・中野駅周辺地区の南北をつなぐ主動線として、利便性の高い、安全・快適に歩行できる空間とする。
- ・中野二丁目と中野五丁目のにぎわいをつなぐ空間とする。

●南口駅前広場

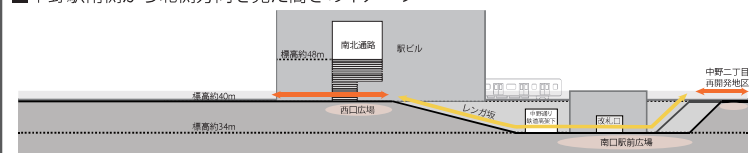
「安全で円滑な歩行者経路を確保し、新たなまちと一体となった駅前空間」

- ・中野駅南側の交通結節点として、各交通手段を円滑につなぐ交通空間と歩行者滞留空間がコンパクトに両立した空間とする。
- ・再開発により新たな来街者が集う空間であると共に、もみじ山地区へのゲート空間でもある駅前広場として整備する。

凡例

- 歩行者動線(標高約48m)
- 歩行者動線(標高約40m)
- 歩行者動線(標高約34m)
- バス動線
- タクシー・一般車動線
- 動線方針
- 昇降施設
- 平面結節点
- 立体結節点

■中野駅南側から北側方向を見た高さのイメージ



※現時点でのイメージであり、今後の検討で変わる可能性があります。

◆中野四季の都市ゲート広場

「中野四季の都市の豊かな緑が顔を出すエントランス」

【中野四季の都市との空間・緑の一体性】

- ・中野四季の都市のエントランスとして、にぎわい・緑の一体的な調和を意識した空間とする。

【歩行者滞留空間の確保】

- ・中野五丁目につながる主動線の起点となる滞留空間を確保する。

中野四季の都市

中野四季の都市
ゲート広場中野
セントラルパーク
サウス

◆新北口歩行者デッキ

「南北通路と中野四季の都市をつなぐ中野駅前の新たなシンボルとなる歩行者空間」

【緑を感じる歩きやすい歩行者デッキ】

- ・中野四季の都市に直接つながるような施設形状とする。
- ・ユニバーサルデザインに配慮し、いつでも誰もが安全・快適に通行できる動線とする。
- ・デッキ上からの景色を意識し、緑や開放感を感じられる空間とする。

【デッキ上の開放感の確保】

- ・南北通路北側の玄関口として、デッキ上から中野四季の都市、拠点施設、中野五丁目地区が見通せる開放的な空間とする。
- ・各地区につながる動線の分岐点として、快適に歩行できる動線と滞留空間を適切に確保する。

国町

◆周辺地区との連携

「公民連携して駅前広場の魅力を高める空間」

⑧【国町と快適につながる歩行者動線デッキ】

- ・公民が連携し、再開発建築物と駅前広場の高低差を円滑につなぐ動線を整備する。
- ・ユニバーサルデザインに配慮し、いつでも誰もが安全・快適に通行できる動線とする。

⑨【周辺施設からの見え方への配慮】

- ・駅ホーム等、周辺施設からの見え方に配慮した空間とする。

◆新北口交通広場

「円滑に乗換えのできる開放感のある交通結節空間」

【乗り換えのしやすい交通広場の整備】

- ・電車、バス、タクシー等を円滑に乗り換えることのできる空間とする。
- ・ユニバーサルデザインに配慮し、いつでも誰もが安全・快適に利用できる空間とする。

【植栽の配置】

- ・交通機能に配慮しつつ、シンボルとなる植栽の配置等により、景観に配慮した緑豊かな空間とする。

【デッキ下の開放感の確保】

- ・デッキ下は、明るく開かれた印象となるよう配慮した空間とする。

【周辺施設からの見え方への配慮】

- ・駅ホーム等、周辺施設からの見え方に配慮した空間とする。

拠点施設

中野四丁目

集いの広場

▼標高約 37.2m

施設下 立体道路

▼標高約 36.5m

中野通り

▼標高約 40m

新北口交通広場

▼標高約 48m

新北口歩行者デッキ

出会いの広場

新北口歩行者広場

▼標高約 40m

▼標高約 48m

南北通路

駅舎

中野通り
鉄道高架下

◆周辺地区との連携

「公民連携して駅前広場の魅力を高める空間」

- ・公民で連携の上、ユニバーサルデザインに配慮し、いつでも誰もが安全・快適に通行できる回遊動線や、居心地の良いたまり空間を一体的に確保する。

①【新区役所への歩行者動線の確保】

- ・西口改札から新区役所までをフラットにつなぐ、いつでも誰もが安全・快適に通行できる歩行者動線を拠点施設と一体的に確保する。

②【新北口交通広場側の滞留空間の確保】

- ・新北口交通広場に面する拠点施設エリア内に、待機・待ち合わせ等に配慮した、広場と一体的なゆとりある滞留空間を確保する。

③【中野五丁目と快適につながる歩行者動線の確保】

- ・中野四季の都市と中野五丁目地区をつなぐ動線として、緩やかな坂道など、いつでも誰もが安全・快適に通行できる建物と一体的な空間を確保する。

④【拠点施設と連携したにぎわいの創出】

- ・出会いの広場、新北口交通広場及び拠点施設を高低差の無い回遊動線をつなぐことにより、拠点施設と連携したにぎわいの空間を創出する。
- ・拠点施設や出会いの広場と中野通りの結節点は、誰もが安全で快適に移動できる立体動線を確保する。

⑤【二つの広場を快適につなぐ歩行者動線の確保】

- ・出会いの広場と集いの広場をつなぐ、いつでも誰もが安全・快適に通行できる動線を拠点施設と一体的に確保する。

⑥【中野通りのにぎわいの創出】

- ・中野通り側のまち並みの連続性に配慮し、中野通りの歩道空間と拠点施設が一体となり、連続したにぎわいの空間を創出する。

⑦【新北口歩行者広場と連携した広場空間の形成】

- ・新北口歩行者広場と出会いの広場は、にぎわいや憩いに適したスペースに配慮し、一体感のある空間デザインとする。

◆新北口歩行者広場

「まちのエントランスとしての出会いの空間」

【歩きやすい動線の整備】

- ・東西連絡通路からつながる空間として、ユニバーサルデザインに配慮し、いつでも誰もが安全・快適に通行できる動線とする。

【出会いの広場と連携した広場空間の形成】

- ・新北口歩行者広場と出会いの広場は、歩行者動線を確保しつつにぎわいや憩いのスペースに配慮し、一体感のある空間デザインとする。
- ・地域のイベント利用等も視野に入れた空間とする。

【周辺施設からの見え方への配慮】

- ・駅ホーム等、周辺施設からの見え方に配慮した空間とする。

凡例

- 主たる動線（標高約 48m）
- 主たる動線（標高約 40m）
- 主たる動線（標高約 34m）
- 滞留空間（交通・動線）
- たまり空間（交流・イベント）

※現時点でのイメージであり、今後の検討で変わる可能性があります。

N

0 20 (m)
10 50

◆南北通路

「中野四丁目と中野三丁目をつなぐ新たな南北動線」

【新たな玄関口としての整備】

- ・中野駅西側の南北をつなぐ動線として、ユニバーサルデザインに配慮した、明るく、安全・快適な動線とする。
- ・新北口、西口との連携に十分に配慮するものとし、公共通路にふさわしい上質な空間とする。

◆西口広場

「歩行者の回遊性を高める、中野三丁目の新たな駅前空間」

【歩きやすく安全・快適に移動できる動線】

- ・ユニバーサルデザインに配慮し、いつでも誰もが安全・快適に通行できる動線を確保する。
- ・広域避難場所への避難通路としての機能を確保する。

【周辺と調和した居心地の良いたまり空間】

- ・デッキ踊り場と地上部を一体的なたまり空間と捉え、親密感のある空間を演出する。
- ・文化的でにぎわいある周辺のまちなみと調和し、界外性を引き継いだ温かみのある広場とする。
- ・周辺街区との舗装デザインや照明デザインの連携に配慮する。
- ・周辺街区との連携や地域のイベント利用も視野に入れた、ゆったりとくつろげる空間とする。

【地域の歴史資源の継承】

- ・地域の歴史を踏まえた植栽等に配慮する。

【周辺施設からの見え方への配慮】

- ・駅ホーム等、周辺施設からの見え方に配慮した空間とする。

◆中野通り(鉄道高架下)

「中野駅周辺地区の南北をつなぐ主動線」

【快適な歩行空間の確保】

- ・中野駅周辺地区の南北をつなぐ主動線として、ユニバーサルデザインに配慮した、明るく安心感のある歩行空間を確保する。
- ・中野駅北側の雰囲気や南口駅前広場との連携に十分に配慮し、公共通路にふさわしい上質な空間とする。

◆南口駅前広場

「安全で円滑な歩行者経路を確保し、新たなまちと一体となった駅前空間」

【動線交錯に配慮した滞留空間の確保】

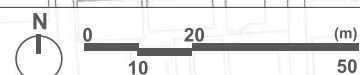
- ・中野三丁目や南口駅前広場などを回遊する歩行者動線と中野通りを通過する動線との交錯に配慮した滞留空間を確保する。
- ・中野通りや駅北側と舗装デザインや照明デザインの連携に配慮する。
- ・ユニバーサルデザインに配慮し、いつでも誰もが安全・快適に利用できる空間とする。

【地域の歴史資源の継承】

- ・地域の歴史を踏まえた植栽等に配慮する。

【周辺施設からの見え方への配慮】

- ・駅ホーム等、周辺施設からの見え方に配慮した空間とする。



凡例

- 主たる動線（標高約 48m）
- 主たる動線（標高約 40m）
- 主たる動線（標高約 34m）
- 滞留空間（交通・動線）
- たまり空間（交流・イベント）

◆周辺地区との連携

「公民連携して駅前広場の魅力を高める空間」

⑩【西口広場や周辺街区との調和】

- ・西口広場や周辺街区の雰囲気と調和のとれた、温かみのある空間とする。

- ・公民で連携の上、ユニバーサルデザインに配慮し、いつでも誰もが安全・快適に通行できる回遊動線や、居心地の良いたまり空間を一体的に確保する。

⑪【動線交錯に配慮した滞留空間の確保】

- ・中野三丁目や、南口駅前広場などを回遊する歩行者動線と中野通りを通過する動線との交錯に配慮した滞留空間を確保する。
- ・中野通りや駅北側と舗装デザインや照明デザインの連携に配慮する。

⑫【快適な回遊動線の確保】

- ・中野二丁目と中野三丁目を安全・安心に回遊できる動線を確保する。

⑬【歩きやすく安全・快適に移動できる動線の整備】

- ・公民が連携し、再開発建築物と駅前広場の高低差を円滑につなぐ動線を整備する。
- ・いつでも誰もが安全・快適に通行できる動線とする。

⑭【公民連携によるたまり空間の形成】

- ・公民が連携し、居心地がよく、にぎわいのあるたまり空間とする。
- ・地域のイベント利用等も視野に入れた空間とする。

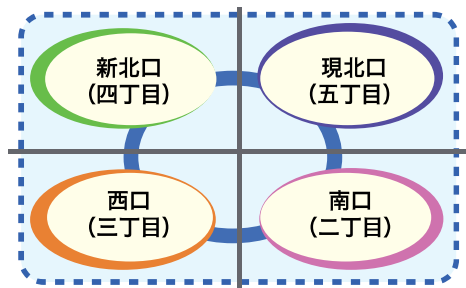
※現時点でのイメージであり、今後の検討で変わる可能性があります。

●基本方針

〈共通デザインと特性をいかすデザイン〉

駅前広場とその周辺の空間は、全体の統一感を示す「共通デザイン」を基本とし、4つの「まち」をつなぎ、各まちの「特性をいかすデザイン」を取り入れ、魅力的なデザインとする。

1. 4つのまちの特性イメージ



凡例 共通デザイン 特性をいかすデザイン

	まちの特性イメージ
現北口 (五丁目)	賑わい、活気、人情味
新北口 (四丁目)	シンボリック、都市的、機能的
西口 (三丁目)	温かみ、安心な居心地、隠れ家的
南口 (二丁目)	都市的、機能的、落ち着いた空間

出典：中野駅現北口駅前広場等の整備・景観形成等の方針（平成22年12月策定）

2. 民間施設とのデザインの統一感

周辺地区の民間施設（以下「民間施設」という。）整備に関しては、駅前広場とその周辺の統一感を保持しつつ、まちの特性をいかす効果的なデザインを誘導する。

3. 空間デザインの実現手法

施設整備にあたっては、公共管理者（区）と民間施設事業者間で整備内容について協議する場を設け、調整を行い、全体の統一感のあるデザインを実現する。

●周辺地区との連携方針

- ・駅前広場に隣接する民間施設の整備にあたっては、本駅前広場デザイン等整備方針に配慮した計画とする。
- ・施設整備や管理主体が異なる接続部では、色彩、照明、舗装、植栽等の連続性や調和に配慮する。
- ・駅前広場と民間広場の連携に関しては、施設整備面のほか、一体的利用や活動を促す仕組みも併せて検討する。

公民連携し、豊かな公共空間を生み出した例



用語の意味

- ※アイストップ：人の視線を受け止め、注意を引くための建築、オブジェまたは樹林などのこと
- ※シンボルツリー：その空間のシンボルとなるような、印象的な樹木のこと
- ※ストリートファニチャー：道路に置かれている備品の総称。街灯、車止め、案内板、彫刻、噴水、ベンチ、バス停など、歩行者に快適さを提供するための設備のこと
- ※ユニバーサルデザイン：障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず、多様な人々が利用しやすいような都市や生活環境をはじめからデザインし、ものやサービス提供などに配慮する考え方のこと

●空間の要素別 デザイン方針

共通デザイン

公民に統一感あるデザイン

サイン

【統一感あるサインで駅周辺の回遊を促す】

- 駅周辺全体の連続性・利便性を重視し、公民連携した統一感あるサイン整備を図る。
- 利用者がまちの姿や目的地を理解しやすい、シンプルなデザインとする。
- 動線ネットワークをふまえ、ユニバーサルデザインに配慮した連続性のあるサインとする。

色彩

【まちの「地色」となる公共空間の色彩】

- 公共施設は、まちの地色として、民間施設の多彩な表現や工夫を生かすシンプルな色彩とする。
- 公共施設の色は 素材色をベースとし、極彩色のような人工的な色彩は極力避ける。
- 駅前空間のみどりが引き立つ色彩を工夫する。

照明

【駅前とまちで創る良好な夜間景観】

- 照明の手法、色温度等は、共通の考え方を基本に、公民一体で良好な夜間景観を創出する。
- 安全・安心確保のために必要な機能照明と、にぎわい演出に有効な演出照明を空間の役割に応じて検討する。
- 環境に配慮した照明計画とする。

植栽

【まちと調和したみどりの駅前空間】

- 駅前空間と周辺のみどりの連続性や調和に配慮した植栽を行う。
- 動線上のアイストップやシンボルツリーなど、駅前の各景観を特徴づけるような植栽配置とする。

舗装・ストリートファニチャー

【まちの景観要素となるデザイン】

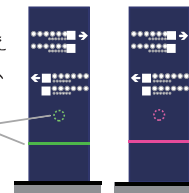
- 公民連携し、連続性や一体感に配慮したデザインとなるような舗装とする。
- 舗装は、すべりにくく管理が容易な素材等を選定する。
- ストリートファニチャーのデザインは、先行整備施設との調和を図りつつ、みどりに馴染む シンプルで控えめなデザインを基本とする。

特性をいかすデザイン

まちの特性を基に各要素で特性をいかしたデザイン

イメージ

共通デザインは変えずに、まちの特性は、さりげないデザインに抑える。



イメージ

まちの地色の選定にあたってはそれぞれのまちの特性をふまえて検討する。



イメージ

公民一体で、まちの魅力を引き立てる照明とする。



公民一体で創出する夜間景観のイメージ

イメージ

地域の歴史・文化の継承、安らぎ・憩いの雰囲気 に配慮したみどりの空間とする。



歴史・文化や周辺みどりにちなんだ植栽イメージ

イメージ

舗装、ストリートファニチャーは、地域の特性をふまえたデザインとする。



※イメージ写真は、中野区内で撮影。